



マヨール



パロマ

Contenido

1. 会長あいさつ
2. 2019年の活動
3. スペインぶらぶら歩き
4. ボリビア旅行記

ごあいさつ

「長崎スペイン世界友の会」もいよいよ来年は9年目を迎えるところまで来ました。創設の時、「会の名前はどこで切れるのですか？長崎・スペイン・世界？」と尋ねられ、やっぱり変えた方がよいのかと悩みました。「長崎スペイン協会」とした方がシンプルで分かり易いですが、実状に合わないのです。勿論スペインはスペインで、スペイン世界とは、スペインが大航海時代にヨーロッパに知られていなかったアメリカ大陸を中心に作った植民地が、現在「スペイン語」を話す国になり、共通の文化的バックグラウンドを持つスペイン語圏のことをさします。会の実態を考えると、これらの国々、つまりスペイン世界を外すわけにはいきません。

現在の長崎は、スペイン以外で唯一、スペイン美術の歴史的変遷を学べるコレクションを持っています。中南米に多くの県人が移住し、国の発展に貢献をし、大いに感謝されています。また長崎大学医学部に熱帯医学研究所があるため、ラテンアメリカの留学生が数多く学んでいます。

来年長崎港開港450周年になりますが、この時代からスペインだけではなく、長崎はアメリカ大陸ともつながっていました。フランシスコ・ザビエルとともに日本へやってきて、キリスタンが平和に暮らせる町と港を開いたコスメ・デ・トーレスは、バレンシア生まれのスペイン人でしたが、ポルトガルが独占していたアジアへの航路を使わず、スペインのセビージャを出立し、大西洋を渡りメキシコに5年近く滞在し、そこからさらに太平洋の航路を探す探検家ビジャロボスとともにアジアをめざし、アンボイナでザビエルに出会い、日本へとやってきていました。同じく西坂の日本二十六聖人記念館の隣にある聖フィリッポ教会に祭られている殉教者フェリペ・デ・ヘスス(スペイン語名)はメキシコ生まれで、直接メキシコからアジアに来ていて、祖国への帰り道に難破し、十字架にかけられました。記念館と教会建設のため、中南米から多大な寄付金が集められたことが伝えられています。

色々あつてのネーミングです。これからも宜しくお願いします。

会長 田村美代子

2019年度(2019.10～2020.9)活動報告

1.月例会(各月第4土曜日14:00～16:00実施)と講演会について

月日	講師	演題
2020年 1月25日	有村 理恵 氏	「近世日本におけるロザリオ信仰の受容とシンクレティズム」
2月4日	堀江 徹 氏	「グアテマラの風土病」
3・4・5月		休会
6月27日	野田 みち子 氏	「グレコを描いて」
7月25日	徳山 光 氏	「須磨コレクションについて 1 須磨コレクションの公開」
8月		休会
9月26日	岩永 浩気 氏	「サンティアゴ デ コンポステラ巡礼路」

2. 総会・祝賀会・講演会

2019年10月12日(土)総会・祝賀会(会場:カサ イベリア)

2019年11月16日(土)設立6周年記念講演会開催

講師:徳山 光 氏 演題:「大航海時代の日本絵画会におけるイエズス会の活動」

(日本二十六聖人記念館にて) 入場無料

田中彰氏の「スペインぶらぶら歩き」の連載が始まります！

1970年代のスペイン 其の1(闘牛)

1936年頃から1975年11月20日にフランコ大統領が亡くなる時まで約40年間、スペインでは独裁政治が続いた。1970年代のフランコ大統領は、だいぶ歳をとっていたがスペイン国はまだまだ独裁政治の色濃く、テロとその報復、密告(チクリ)で戦々恐々であった。フランコ将軍が亡くなってすぐ、国葬がマドリードの中心地で行われ、私もグランビアと呼ばれる通りで棺おけの来るのを眺めようと待っていたのだけれど待てど暮らせどやって来ない、「40分も待っているのにまだ通らないぜ…ったく。」と私。後ろにいた爺さん、私の肩をポンポンと叩いて言った言葉は「お若いの、40分ぐらいなんだ、わしは40年待ったんだぞ。」…独裁政治は血なまぐさい殺しあい、自由な思想の排除、思想犯にはめっぽう厳しく、反社会同盟はどんどん血まつりに挙げられ、反社会同盟は報復としてどんどん爆弾テロを行うと、いやはや凄惨な国の内情ではあった。反して民衆には良きこともいろいろあった。独裁政治ゆえに他の国々との物流が乏しく、貧乏ではあるが物価は安い、テロを除けば治安はよく国民の生活などのんびりしたもので安心感があった。犯罪はすくなく、例えば、夕方6時ごろになるとラジオでその日あった遺失物(落としもの)の放送が流れてくる、「…通りのxx店まえに落としものがありました。心当たりのある人は、遺失物預かり所に保管してあるので取りに来て下さいな。」といった具合である。



銀行



路地裏



向かい

フランコ政権下では資本家への締めつけは厳しく、カトリック会は支持というものであった。国民の多くは信仰心が強く、所謂マリア信仰が続いている。女は弱く、母は強いと聞くけれども、ここスペインでは、女は強く、母はもっと強いのだ。爺さん、夫、息子、甥、孫など男どもは女性のまわりを、ただただグルグル回っている。それだけに男は逃げ足が速い、例外なくだ。私が住んでいたアパートの上の階でドタバタ、ガシャーン、ドタバタ、バタンきいーブー、アントニオオーという音がしたので、何が起こったのかと部屋の外に出てみたら、上の階の中年の女性が包丁を手にゼイゼイと立ちすくんでいた。どうやら上に住む中年夫婦の夫が若い娘と好い仲になったらしい。バレた瞬間の逃げ足だったのだ。いやはや逃げ足の速さったら凄い…この国では絶対、女性に楯突くことはありえない。

日本とスペインの死生観は似ている。生と死の間(はざま)に身を置き、何があるかわからない未知のものへの恐怖感と隣り合わせの人生を愉しむという知恵と哲学を考え創り、身につけている。詩、絵画、建築、彫刻等の芸術は言うに及ばず、国技、芸能も生死の境界線を基準として創り上げられている。人智を超えたものとか、DUENDE(魔物の世界)とか、幽幻とか、言葉を持ってしてではなかなか説明し難い何かを両国民は欲しがらる。「生と死」の境界線で起こる何物かを感じようと、じーっと彼らは待ちつづける。相撲で言えば、力士が土俵に上がり塩撒きをくりかえし、客は「物事」が起こるのを待ちつづける。フラメンコの世界では、100回舞台を見に足を運んで、1回「物事」にありつけば良しという具合に待ちつづける。



闘牛場

1960～1970年は最も闘牛の熟成した時代である。「闘牛」(コリアダ・デ・トロス)は死生観を表現する国技である。観客は想像のつかない「物事」が起こることを待ちつづける。神を演じる「闘牛士」、嫉妬・欲望・不安を演じる「雄牛」。闘牛士は慌てず騒がず、何事もないかのように狂いまくる雄牛を持ったマント(ムレータ)でもってやり

過ごす、宥めるように。疲れた雄牛は、闘牛士の持つサーベルで静に「死」の世界に旅立って行く。人生を模した「ドラマ」のなかで何かがおこり、観客は待ちつづける…。闘牛愛好家(アフিশオナード)は、真の死生観を求めている。嘘、偽りは以ての外、闘牛士がどんなに素晴らしい技をつかい、度胸たっぷりに雄牛に立ち向かっていっても、(雄牛に対して)愛、尊敬の念、そして品格が表れていなければ許さない。反して眼の前で起きた「死と生」のはざまの素晴らしいドラマに感動したときには闘牛士に、闘い敗れた雄牛のかた耳を闘牛士に献上するように「闘牛を司る責任者」(プレジデンテ)に要求する。それだけでは足りない程の大きな感動には、もう一方の耳、まだまだそんなもんじゃこの感動は表現できないぞ、のときは尻尾を切って闘牛士に渡す。まだまだもったの場合は…しらない、見たことない。

この究極の「見世物」は妥協を許さない。スペインは、死を民衆の「見世物」になせる程の国である。(フェデリコ・ガルシア・ロルカ)



イースター



パン



引越

Estado Plurinacional de Bolivia

世界で一番高所にある都市ラパス 標高3650m

空港はさらに高所にあり富士山より高いエルアルト4082m

2019年8月にラパスの地に着いた。

ラパスへ入国する2日前より高山病に備え薬を服用した。到着した空港は標高が一番高い。到着後もさほど違和感はなく過ごすことができた。ボリビアの首都ラパスはすり鉢状になっている。4082mのところからラパスの街の大切な公共交通機関のロープウェイにてラパスの中心地へ移動、到着したラパスの街は3650mだった。日本の富士山の頂上近くの高さに匹敵する。

そのラパスの街には高層ビルや住宅街も建ち並んでいた。街の中は坂が多くまるで長崎のようであった。街中にはお店が立ち並び道の脇には民族衣装を(チョリータ)身に着けた人々が露店のお店をやっていた。現代的なものと古くからの民族が混在している街だった。

文責朝長



ラパスで一番標高の高いエルアルト



ロープウェイ到着地



ミニ情報



ボリビアの首都 ラパスの ミテレフェリコ (ロープウェイ)
 2014年開業 2018年には世界一長いケーブルカーシステムとしてギネスブックに登録
 オフィス街や高級住宅地があるすり鉢状の底の中心街と庶民が住むエルアルトを結ぶ庶民の足になっている。ラパス中心街が交通渋滞が多く約1時間かかることもあるためミテレフェリコでは約20分で移動ができる。おおよそ30キロメートルの長さのケーブルシステムは町中にあり 約16万人の市民が利用している。現在6路線がある。(赤黄緑青オレンジ白)

長崎スペイン世界友の会>

入会金:2,000円、年会費:1,000円。関心のある方は、下記にご連絡ください。

連絡先:事務局所在地:

〒852-1855 長崎市中園町17番14号「カサ・イベリア」内

電話・Fax:095-844-3318

メール:<mailto:info@amigos-mundo-hispanico.jp>

URL :www.amigos-mundo-hispanico.jp